

【別紙 2】

各種審議会等審議結果公表シート

会議の名称	第 2 回中津川市社会教育委員の会 (兼) 中津川市公民館運営審議会
開催日時	平成 29 年 2 月 24 日 (金) 19 時 00 分～20 時 50 分
開催場所	にぎわいプラザ B 1 ホール
出席者の 役職名	社会教育委員 (兼) 公民館運営審議会委員 17 名 欠席委員 6 名 事務局 文化スポーツ部長・文化スポーツ部次長・生涯学習スポーツ課長・図書館長・文化振興課長・鉱物博物館長・生涯学習スポーツ課長補佐・主任主査・社会教育指導員 公民館長 (中央・苗木・阿木 _{代理} ・山口・川上・坂下・付知・福岡)
話し合われた内容 (会議録又は審議概要)	(次第) 1 会長あいさつ 2 文化スポーツ部長あいさつ 3 議題 ・岐阜県社会教育委員連絡協議会理事会に参加して ・提言をふまえた意見交換会 4 閉会 1. 会長あいさつ 2. 文化スポーツ部長あいさつ ・「中津川市審議会等の会議の公開に関する指針」により、本会議の公開を決定する。 3. 議題 (以降の進行は会長) ・岐阜県社会教育委員連絡協議会理事会に参加して 会長 『もっと知ろう！社会教育委員～社会教育委員のより主体的な活躍のための提言～』を県の社会教育委員が提言され、各市町村でもこれを踏まえて社会教育委員について考えて欲しいというお話があった。高山市の例では社会教育のコーディネーターがまちづくり推進委員に入っているいろいろな分野の人がまちづくりをはじめてい

る話もあった。中津川市もこれを参考に新たな方向性をみつけてやっていきたい。

・提言をふまえた意見交換会

A～Eの5つのグループに分かれてグループ討議を実施した。各グループの代表的な意見は次のとおりである。

Aグループ

- ・社会教育とはニーズをとらえることではないか。
- ・社会教育委員としての活動例を示すことや目標や方針等の方向性を考えること

Bグループ

- ・地域の人とのつながり、様々な年代とのつながりをもつことが委員としての役割がある。
- ・昔は地域にリーダーがたくさんいたが今はそうではない。イベントなんかを利用して地域の活動を広げていくという役割ではないか。

Cグループ

- ・社会教育委員として引っぱっていくのは難しい面があり、また地域活動の主体となれと言われているようで、違和感・疑問を感じる部分もある。実際どうしていいかわからないと感じている委員もいると思う
- ・人と人とのつながりをコーディネートしていくような意識をもって活動していくことが大事ではないのか
- ・公民館の役割として地域の課題を解決するというのがあったと思うが、社会教育委員にもそれが求められてきた
- ・社会教育委員の方達はプレイヤーになるのではなく指揮をとるような事が求められているのではないか

Dグループ

- ・講座等開講しても90%以上が女性という状況。特に男性が活動に参加できるような仕組みが大事
- ・年代別によっても違うので年代別にあったコミュニケーションのとりかたも活動を考える上大切

Eグループ

- ・社会教育委員にとって大事なものは人とのつながり
- ・公民館では若い人の利用が少ないので中学生の人たちをボランティアとしてひっぱってくれる等の案もでた
- ・実際社会教育委員がどんなことが出来そうか、青年会議所の方たちが中心となり中津川市のかかるた大会をやっています。
- ・地域が動くことで学生とか若い人が大人の動きをみて参画して未来の後継者を育てることになる
- ・中津の事を故郷を思い出して語り合ってくれるような思い出作りや体験をして汗をかくことが出来たらいい

	会長 次回からこれらの意見をもとにさらに議論を深めていきたい。 4. 閉会 以上
会議資料	(添付ファイル) 資料
次回開催予定日時	平成 29 年 3 月 28 日
次回開催予定場所	にぎわいプラザ B - 1 ホール
所管部課	生涯学習スポーツ課

平成 28 年度 第 2 回
中津川市社会教育委員の会（兼）公民館運営審議会

平成 29 年 2 月 2 4 日（水）午後 7 時 0 0 分
にぎわいプラザ B1 ホール

1 開会

2 会長あいさつ

3 文化スポーツ部長あいさつ

4 議題

- ・岐阜県社会教育委員連絡協議会理事会に参加して
- ・提言をふまえた意見交換会

5 閉会

私の考える「社会教育」とは

郷田恵美

私が「社会教育」で第一に考えたいことは人育てです。平和で幸せな世の中を築くのは人間です。ですから、平和で幸せな世の中を築くことが大切だと考える人間を育てること、また、そういう人間が育つ社会を作ることが大切だと考えます。

私がそのように考えるようになった理由を、経歴に基づいて述べさせていただきます。

私は、長年、就学前の子育ての現場（幼稚園と未就園児親子教室）で働かせていただきました。その中で、現在の世の中において子育ての大切さを伝えようと思うとき、幼稚園や保育園に通うようになってからでは遅いと思うようになりました。

なぜなら、今の若い親は殆どの方が皆良い方で、子育てもまじめに一生懸命行っている人が多いにもかかわらず、子育ての簡単な方法やポイントが分からず、日々悩みを抱え、その悩みを相談する人も身近におらず、スマホやインターネットで悩みの答えを検索している人が多いからです。しかも、スマホやインターネットは一度に複数の答えにたどり着いてしまい、どれが正しい答えなのか決められず、新たな悩みを生み出してしまう場合も少なくありません。つまり、真面目な人ほど子育てノイローゼに陥ってしまう可能性が高くなってしまいます。このような状況では、こども自身も育ちそびれたり、ゆがんでしまったりという結果に陥りやすいようです。

では、どうしてそのような状況になってしまったのでしょうか。それは、少子化、核家族化などで、親自身が子育てを客観的に観察や体験して学習する機会が少なかったことが挙げられます。昔（30年位前）の親は、家族の人数も多く、生活のテンポものんびりしていて、皆でこどもの育ちにかかわっていました。だから、自分が親になる前に、赤ちゃんは手間がかかるけれど可愛いものと心から思う経験をすることができたのです。このような経験をしているからこそ、自分が親になった時も、当たり前のように心からの愛情をもって育てることができたのです。

ところが今の親の育ってきた状況を考えると、高度経済成長の中で、物は豊かであったにもかかわらず、自分を育ててくれた親は忙しい生活を強いられ、不本意ながらもこども中心の生活リズムではなく、大人の都合で動かしてしまっていたことが多くありました。そのような中で、ゆとりをもって心を豊かに育む大切さを後回しにしてしまっていたようです。当然、こどもの育ちに必要な知識を教えられる機会もないまま大人になってしまった場合も多いでしょう。

現在の乳児を抱えたお母さんに、こどもの中に自己信頼感（基本的自尊感情）を育みながら育てていくための大まかな発達過程と、ポイントとなる援助の場、具体的なかかわり方を教えてあげると、とても喜ばれます。そして悩んでいたことが解決できるとホッとするととても良い笑顔を見せます。この笑顔こそが良い子育てをしていくもとになると思っています。そのことも親さんに伝えることで、自信をもって笑顔で子育てしていただけるように心掛けています。

こどもの健やかな成長と幸せを願う親、その親のもとで平和で幸せな世の中を築くことが大切だと考える子ども、その両方が育まれていくように社会全体で支援していくこと、それが私の考える「社会教育」なのです。

(1) 地域社会の現状 (高山市の場合)

- * 市の町内会の加入率は68%で、年々下降している。
- * 少子化が進み、児童生徒数は年々減少している。支所地域では学校の統廃合が進み、学校がなくなった町内もある。
- * 高齢化がすすみ、市全体の高齢化率30%をこえ、農村部では60%を越える地域もある。また市の中心の町内でも、核家族化により、高齢者ばかりで町内会活動ができないところもある。
- * 地域の連帯意識が希薄化し、地域活動が弱体化し、地域の活力が弱まる傾向が強まっている。
- * 子育てについて親が学び合う場がほとんどないため、0才から5才の子を持つ親の養育についての不安が強い。
- * 地域によって活動に格差があり、企画や実践力や意欲に富んだ人材が少ない。

(2) 社会教育委員に求められるもの

- * それぞれの地域社会の現状をしっかりと把握し、地域の活性化のための地域課題は何であるかを的確に把握すること。
- * その地域課題を乗り越える(解消)ため、自分なりの方向性や方策をもち、それを地域住民や地域諸団体に発信したり助言したりして、共に活動に参画する積極的姿勢をもつこと。

(3) 今、いちばん大切にしたいこと----- [身近な人々のつながり]

- * 社会教育は住民の学習と交流の場である。そこに住んでいる人々が [いつまでも住み続けたい] と思えるような地域にするための基本はとなるものは、身近に住んでいる地域の人々が、互いに認めあい、手を取りあって同じ方向を向きながら [協働] していく力を育むこと。 [心と心のつながり] をしっかりと醸成すること。このことこそ活力ある地域作りの原点であることを認識することがいちばん大切ではないかと思う。

(4) 地域課題に対応する学び

- * 地域課題が多様化し複雑化している現状にどう向き合い、どのような学びをするかは大変困難なことである。すべての課題に対応した研修は不可能に近い。精選して焦点化すれば内容が画一的になるという難しさがある。
- * そこでテーマを年次に分けて、できるだけ具体的テーマで研修を計画し多くの委員の期待に添うようにしたい。
(委員の課題意識がベースになる)

(5) 地域の人を育てる

- * 地域の活力の源は人である。地域のために一肌ぬげる人を一人でも多く育てることが大きな課題である。そのために大切にしなければならぬことは、活動後の反省と評価である。どんな小さいことでも [良かったこと] をしっかりと評価し認めることが重要である。それが [個の自信] になり、認識の変化や自立につながると思う。
それが、 [学ぶこと] [活動すること] のモチベーションになると思う。



社会教育委員の役割について

○もっと知ろう！～社会教育委員のより主体的な活躍のための提言～

- グループトーク
テーマ「自分たちの活動を考える」
- ・社会教育委員として
 - ・社会教育委員の会として

◇メモ

もっと知ろう！社会教育委員～社会教育委員のより主体的な活躍のための提言～ (平成28年8月 岐阜県社会教育委員の会) 概要版

岐阜県各市町村社会教育委員の現状と課題

- ☑ 県内42市町村中、40市町村が社会教育委員を置いている。
- ☑ 市町村は、社会教育委員に対して、「家庭・地域の教育力向上のために家庭・地域・学校をつなぐパイプの役割」や「行政や施策の運営に対する住民の意向を伝える役割」を求めている。

「社会教育委員制度」が形骸化し、十分に活用されていない！

- ☑ 社会教育法にみる社会教育委員の職務が果たされていない市町村がある。
職務① <社会教育に関する諸計画の立案> (例) 市町村総合計画検討委員に社会教育委員を含む市町村は約30%
職務② <教育委員会の諮問に対する意見具申> (例) 社会教育委員の会が提言や意見具申を行っている市町村は約25%
職務③ <地域の課題解決等に必要調査研究> (例) 社会教育委員の会に小委員会を設置している市町村は1市
- ☑ 社会教育委員の多くは充て職で、名前だけの委員になっている市町村がある。
- ☑ 会議が形骸化しており、社会教育委員の意見を施策に反映させる仕組みがない市町村がある。
- ☑ やりがいや満足感を感じていない社会教育委員が約40%いる。

今後期待される社会教育委員の役割

- ☑ 少子高齢化、グローバル化、地域社会の教育力低下、学校が抱える課題の複雑化・困難化等、社会状況が急速に変化している。
→ 地域の未来の担い手である子どもの教育を地域と学校が力を合わせて充実させることは、地域の振興・創生につながる。学校と様々な機関・団体や、地域住民同士をつなぐコーディネーターとしての役割をもつ人材が求められており、社会教育委員にその役割を託すことができるのではない。

社会教育委員が「学校を核とした地域づくり」のキーパーソンとして活躍することで、子どもたちの豊かな成長と住民一人一人の活躍の場の創出、地域の活性化が期待できる。

社会教育委員のより主体的な活躍に向けて（提言）

<社会教育委員及び市町村事務局が取り組むべきこと>

- ①社会教育委員に求める資質を明確にすること
- ②地域の具体的な未来像を話し合い、共有すること
- ③社会教育委員が地域の組織や人々をつなぐ立場として活躍し、コーディネーターとしての役割を果たすこと
- ④社会教育委員の見識を深める研修と、社会教育委員同士の交流を工夫すること
- ⑤事業目標と評価指標の設定を工夫し、事業内容を改善すること

<県教育委員会が取り組むべきこと>

- ①市町村事務局の意識改善を図ること
- ②専門性を身に付けた社会教育委員を育成すること（人材育成のための補助金等）
- ③各種団体と連携して、社会教育委員の研修を体系化すること
- ④社会教育委員の活躍を認め広める機会をもつこと（県教育長感謝状授与等）
- ⑤社会教育委員の活動事例を積極的に紹介すること（交流サイト開設等）

期待できる効果

- ☑ 社会教育委員が「学校を核とした地域づくり」のキーパーソンとしてコーディネーターや支援員の役割を果たすことで、学校や地域が活性化する。
- ☑ 社会教育委員の資質が向上するとともに、社会教育委員がやりがいや満足感をもって役割を果たすことで、行政や施策の運営に対する意見交換が活発に行われ、より効果的な事業改善が図られる。